

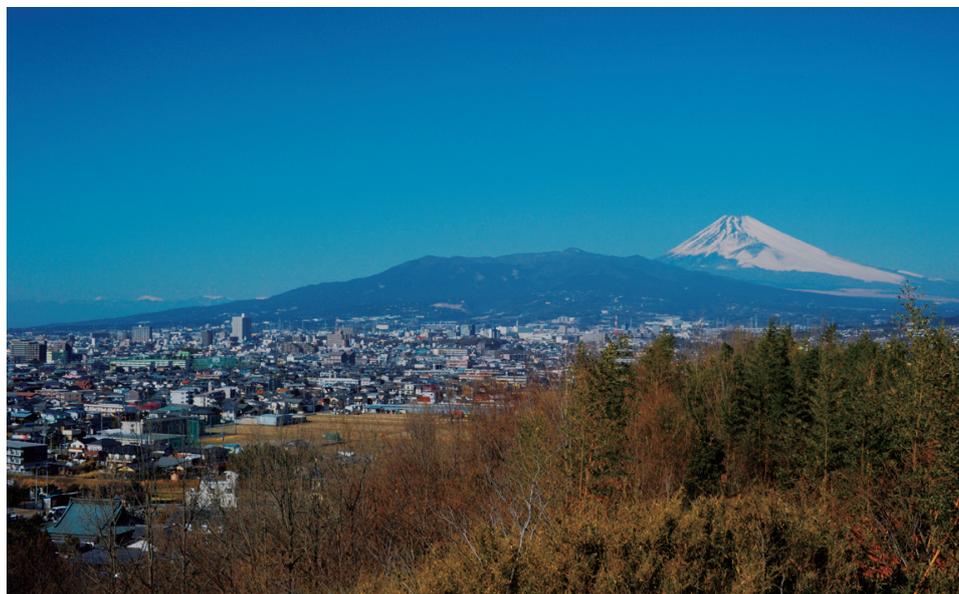
広報みしま

2月15日号

- 2 富士山の恵み～三島の湧水～
- 4 きずなづくりトーク意見の紹介
- 6 春の全国火災予防運動
消防団防火パレード
女性消防団員募集
- 7 3月10日は「犯罪0の日」
交通事故発生状況
- 8 引っ越し手続き
- 10 ガーデンシティみしま連載
- 11 スポーツ
図書館
- 12 健康づくり
文化のひろば
- 13 暮らしの情報
- 15 情報ワイド版
- 16 ご当地ネット通販「三島 sg」
「恋するフォーチュンクッキー」
三島市バージョン
市民活動団体～南二日町サロン～

富士山の恵み

～三島の湧水～



2月23日は、富士山の日。

私たちの住む三島は、富士山からの恵みをたくさん受けています。
その中でも湧水は、三島の生活に欠くことができないものです。

問合せ 広報広聴課 (☎983-2620)

生活 と 湧水



今回の表紙

富士山から三島にもたらされる湧水の流れは、中郷温水池で稲作に適した水温に温められます。富士山の湧水が

三島の大地を潤しています。

水面に映るその勇姿とともに、富士の恵みを感じる一瞬です。

(撮影地：中郷温水池)

昭和23年（1948）まで、多くの家庭では生活用水に川や井戸などの湧水を使用していました。川沿いの家では、岸边に張り出したカワバタを備え、風呂の水汲み・野菜洗い・洗濯などをしました。水辺から離れた家では、共同のカワバタを利用していました。夏には、カワバタにフネ（ブリキなどでできた箱）を結び、水面に浮かべ、「天然の冷蔵庫」として活躍しました。

大岡昇平は小説『花影』の中でも、“富士の白雪が解けた水といはれる地下水を豊かにたたえた池があり、堰から音を立てて流れ出していた。…”と三島の湧水を表現しています。

▲現在も残るカワバタの跡は、湧水が生活の一部であったことを伝えています。

農業 と 湧水



中郷地区の農業用水として使用される源兵衛川の水は水温が低く、稲作に適していません。そこで1953年(昭和28年)、源兵衛川の水を太陽光で温めるための貯水池として整備されたのが、「中郷温水池」です。現在では、216haに農業用水を供給し、散策路と緑地帯を配置した散策コースとなっています。

「濃紺色の富士山を背景に、緑が広がる田んぼ」そんな三島らしい夏の風景も、富士山がもたらした恵みです。

▲夏空の下、緑が広がる田園風景は中郷地区らしい夏の一場面です。

楽寿園 と 湧水



楽寿園は、明治維新で活躍した小松宮彰仁親王により、明治23年に造営されたものです。小松宮親王が、溶岩と湧水群を湛えた小浜山を見て感銘し、別邸を造営したと伝えられています。

園内では、小浜池と中の瀬に富士山の伏流水が湧き出ます。小浜池の面積は約5,000㎡で、水深2m時の湛水量は約5万トンにもなり、大量に湧き出るときは、小浜池の池底の溶岩層に生じている多数の裂溝のすべてが湧水口となります。

楽寿園内を含む富士山水系の伏流水は、富士山東側の降雨量との関係が顕著で、冬期の富士山上部の積雪が多いと翌年の夏期に湧水量が多く、小浜池の水位も高くなります。

▲昭和29年に国の天然記念物および名勝に指定されています。(平成23年満水時の様子)

代表的な市内の湧水

こも 菰池公園



公園の名前の由来はいくつかありますが、一説には菰池付近は真菰が多く生えた、のどかな湿地帯だったことから、この名が付いたといわれています。

白滝公園



段差のある溶岩群の割れ目から湧水が湧き出ている“水の都”らしさを今に伝える公園です。夏には溶岩に覆われた公園のそこかしこから富士山の雪解け水が湧き出している様子が見られます。

清住緑地



清水町との間に位置し、湧水や多様な動植物が生息する豊かな自然環境が市街地にありながら残っています。地域住民、NPO、行政などによる協働のパートナーシップのもと、水辺の整備が進められた公園です。